

組織現勢 (4月1日現在)

組合員数	25,318世帯
出資口数	96,455口
3月の新規加入	24世帯
3月の増資口数	141口

No. 339 再生紙を使用しています。

城南の保健

発行所
城南保健生活協同組合
 本部事務局 大田区大森中1-22-1 2階
 TEL (3762) 0266
 振込銀行 さわやか信用金庫大森支店
 口座(普) 0469459
 発行 「城南の保健」編集委員会
 毎月1回発行・定価1部 30円

東日本大震災の被害に遭われました 皆様へ心よりお見舞い申し上げます

城南保健生協、城南福祉医療協会、城南医薬保健協働の城南3法人は引き続き現地への支援派遣を含め、義援金等のとりくみを強めてまいります。組合員のみなさまのご協力をお願いいたします。(記事は4月8日現在)

この間の緊急支援チームのとりくみ

城南3法人は地震発生直後より情報収集を行い、状況確認を行ってまいりました。3月15日には緊急支援チーム第1陣(医師・看護師・事務の4人1チーム)を宮城民医連坂総合病院に派遣。その後も、第2陣、第3陣と続き、4月8日現在までに

城南保健生協組合員さんも現地に支援へ

城南保健生協組合員さんの中には、民医連以外の医療機関で働く方もいて、「ぜひ現地に支援に行かせてほしい」という連絡が入りました。城南ドルフィン(生協母体の水泳チーム)に子どもを通わせる広瀬さん(看護師)は、「少しでもお役に立ちたい」ということで、全日本民医連のバスに乗り込み3月26

本部・梶原事務局員が宮城県へ(4月6日～9日)

全日本民医連登録の城南保健生協からの派遣は野口事務局員(3月15～17日)、広瀬京子看護師(ドルフィン)(3月26～28日)、重政京子看護師(和歌山)(3月31日～4月6日)に続き、4人目となります。

梶原事務局員から届いたメールです

坂総合病院に着きました。高速から見えた津波の被害は、映像で見ると違い、生々しいです。流された車なども津波の力の大きさを感ぜさせます。川や高速を挟んで被害の違



「入れ歯の状況はいかがですか」と歯科支援医療チーム



全体ミーティングで打ち合わせて出発します



寄せ書きにあたたかい応援メッセージが



蒲田駅西口で行った東日本支援募金行動



支援隊第3陣 (3月20日～23日)



支援隊第4陣 (3月25日～27日)

1日の流れです

その日の行動を朝7時50分までに確認します。支援者の職種ごとに病院2階の災害対策本部前に貼り出されます。配置先は4つの避難所と長町病院、泉病院、宮城野の里などです。

ライフラインの早急な復旧を

午後から若林地区へ行き、若林クリニックから地域訪問に出発。車で5分ほどの地域を回りました。ここは津波の被害がありました。仙台東部道路を挟んで、海側と内陸側の被害の違いがあまりにも大きく驚きまし

十分な支援が行き届いていない状況がかなりあります。もうすぐ新学期が始まるため、学校に避難している方々は別の場所に移ることになるそうです。先の見えない避難生活の上に移転が重なり、十分な食事も取らず、風呂にも入れず、衛生面も悪い状況です。

宮城県沖、太平洋深くで発生した大地震は、巨大な津波を引き起こし、まさに未曾有の災害。引き続き福島原発の事故に見舞われています。突然襲ってきた国難は、日本社会の断面を鋭くえぐりだしました。国民は自然の猛威におののきながらも、ただちに被災地への救援を開始しました。その多くが草の根の組織であり、個人でした。保健生協も数次に渡り救援チームが被災地に赴いて活動が続いています。いま日本人の間に連帯感が生まれようとしています。▼開幕を間近に控えたプロ野球も、経営側の強行開幕に抵抗して、被災地の人々、国民の思いと結びついた選手会の粘り強い交渉で開幕を延期させました。国民はフライングプレーを見る観客のごとく拍手を送りました▼いま東京そして大田、品川に避難してきています。福島原発の放射線被害から逃れてきた人々は「一人ひとりに節電をお願いします」とテレビから繰り返し流される東電のCMを複雑な思いで聴いていると東北人らしい重い口調で話しています。CMには東電の責任も、政府の対応の根底にあるものは相変わらず「自立・自助」にとどまっています▼阪神・淡路大震災から復興したかに見える神戸では、いま高層ビルが建ち並ぶなかで、地元の商店街が破壊され、中小企業はさらに苦境に追い込まれています。復興と新たな政治を求める時です。

腹八分